テーマ	利益計算の仕組（Ⅱ）・会計理論と会計基準（Ⅰ）		
学籍番号		氏　名	

1.　次の文章の空欄にあてはまる語句または数字を答えなさい。

・ 期中仕訳のみでは不完全な記録を、経済的事実と一致させるために決算時におこなう調整仕訳のことを（　①　）という。
・ （　②　）を利用すれば、残高試算表から決算整理を経て財務諸表を迅速に導出することができる。
・ 一会計期間の帳簿を締切ることを（　③　）という。また、その際に収益・費用の各勘定を集合させる（　④　）勘定を設けるとともに、資産・負債・資本の各勘定を集合させる（　⑤　）勘定を設ける。
・ 帳簿記録を基礎として財務諸表を作成し、そのなかで利益を算定する方法は（　⑥　）とよばれる。
・ 当期純利益の計算には、次の２つの方法がある。１つは損益計算書が示すように、収益と費用の差額として利益額を計算する方法であり、他の１つは、期首と期末の貸借対照表を比較することにより、資本の増殖分として利益額を計算する方法である。前者の方法は（　⑦　）とよばれ、後者は（　⑧　）をよばれる。
・ （　⑦　）は、資本を増加させる原因となる収益から、資本の減少をもたらす費用を控除する形で利益を計算する方法である。収益－費用＝当期純利益のこの等式を（　⑨　）という。
・ （　⑧　）は、一期間における資本の増殖分をもって当期純利益を計算する方法である。期末資本－期首資本＝当期純利益のこの等式を（　⑩　）という。
・ 会計学上、収益・費用と資産・負債のどちらが基本的概念かについて対立した見解がありますが、収益・費用こそが中心概念であるとする見解を（　⑪　）観（または（　⑪　）アプローチ）とよび、資産・負債を基本概念とみる考え方を（　⑫　）観（または（　⑫　）アプローチ）とよぶ。
・ 損益計算書に計上されない項目の混入によって、資本（特に剰余金）が汚されていないということを（　⑬　）関係とよぶ。
・ 財務諸表の作成に際しては、多くの場面で見積や判断が必要とされるので、恣意的な選択や会計処理を通じて利益操作が行われるおそれがある。経営者が利益操作を行う動機は多様であるが、代表的な動機として（　⑭　）と（　⑮　）がある。
・ 国内基準と国際基準の主要な差異を調整することにより、どちらの基準に基づく財務諸表を利用しても同一の意思決定結果に到達するレベルまで、国内基準と国際基準を実質的に合致させることを、会計基準の国際的な（　⑯　）という。

①	決算整理仕訳	②	精算表	③	帳簿決算
④	損益	⑤	残高	⑥	誘導法
⑦	損益法	⑧	財産法	⑨	損益法等式
⑩	財産法等式	⑪	収益費用	⑫	資産負債
⑬	クリーン・サープラス	⑭	利益捻出（利益圧縮）	⑮	利益圧縮（利益捻出）
⑯	コンバージェンス				